

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
4

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

チュウホクドットコム

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

平成26年度 教育フォーラムを開催しました。

平成26年10月24日（金）に甲斐市の日本航空学園内J-shipホールにて峡中地区・峡北地区合同地域教育フォーラムが開催されました。

本年度は「考えよう！いじめ問題」と題して、平成25年9月に施行されたいじめ防止対策推進法を受けて、私たちそれぞれの立場からできることについて考えました。秋晴れの空の下、平日の午後にもかかわらず、450名近くの方々が集まってくださったことは、いじめ問題への関心の深さがうかがわれます。

開会に先立ち、日本航空高校太鼓隊によるパフォーマンスがアトラクションとして行われました。その演奏は、気迫のこもったすばらしいもので、1000人収容できるJ-shipホールが一瞬で静まりかえり、来場者は、耳も目も、そして心までも奪われていました。



甲府市では、県内に先駆けて「甲府市いじめ防止基本方針」を策定し、学校・市教委・PTA・児童相談所・地方法務局・警察などで構成する「いじめ防止連携会議」や「いじめ対策支援チーム」が活動しており、その報告についてお話をいただきました。



主催者を代表して、峡北地区地域教育推進連絡協議会の清水 亘（しみず わたる）会長よりあいさつがあった後、基調報告として、甲府市の竜澤規之（たつざわ のりゆき）指導主事より甲府市の取り組みが紹介されました。

続いて、千葉大学の藤川大祐（ふじかわ だいすけ）教授より、「いじめのない地域社会の実現をめざして」というテーマで講演をいただきました。



「いじめのない地域社会の実現をめざして」

千葉大学教育学部 藤川 大祐 教授

昨年度の「いじめ防止対策推進法」策定に、委員として直接携われた藤川先生のご講演は、次のような内容でした。

1 いじめ防止対策は“目に見える形で”行う

いじめ防止への対応は、学校現場を中心にこれまでも努力していた。しかし、外部からはその取り組みが見えないという批判があった。大津市のいじめ自殺問題などを受けて、今回の推進法では、「基本方針 対策組織 調査結果の公表」の策定の流れが外からでも見えるように求められ、さらに取組を通して点検・充実を図ることも盛り込まれている。また、「基本的考え方」として、地域や家庭との連携・関係機関との連携も謳われている。

2 “危機管理の発想”でいじめ防止に取り組む

過去の統計を見ると、いじめの定義や調査方法によって件数にばらつきはあったものの、いじめは「いつでも実際に起こっていた」と理解していることが大事。いじめ撲滅は究極の目標だが、当面の目標は「深刻ないじめの激減」であるはず。「いじめはあって当たり前」の発想の下、望ましい集団作りに心がけ、早期発見早期対応の準備をして、徹底した被害児童生徒の保護にあたり、最悪な場合での問題拡大を防止していく、以上のことに取り組んで欲しい。普段から危機管理の発想を持ちながら、「ヒヤリ・ハット」の段階で対応していくことが必要である。

3 “違いを認め合って”集団を作る

学校(学級)には、互いの違いを尊重し、認め合えるような「異質原理」に基づいた集団作りが求められる。「当事者にはいじめという認識がな



い場合が多いこと」を前提に、小学生対象にいじめ予防の授業を実施している。「いじり」「発達障害」など、いじめか否かの判断が難しい架空事例を活用することによって、「人が厭がることはやめよう」「何かが苦手でもみんなと同じようにできない人がいるよね」という感覚が理解できればよい。また、地域支援者と関わることで、子どもたちが視野を広げたり、認められる経験をしたりすることが、状況の改善につながると考えられる。

4 ネット問題には、より一層の“早期発見・早期対応”が求められる

青少年へのスマートフォンの普及に伴って、利用時間増加による依存傾向の深刻化や、また「LINE」利用上のネットいじめ問題点なども増えている。ネットいじめは進行が速いので、早期発見・早期対応が求められる。

地域支援者に期待したいこと

- ・ 教える立場に立つ必要はありません。一緒に考える立場に立ってほしいと考えます。
- ・ 大人社会にも、いじめはあります。相性の悪さ、許せないこと、相手のために思ってしまうこと等が、とすると相手には非常にづらいことになったりします。「いじめは悪い、やめよう」という素朴な正論は通用しません。
- ・ いじめについて、子どもたちはそれぞれさまざまに考えています。今後、子どもたちが自分たちで問題を解決していくことが求められます。子どもたちの力を信頼し、子どもたちの話を丁寧に聴くというスタンスで取り組んでいただくことを期待します。
- ・ みなさんとかかわることで、子どもたちが視野を広げたり、認められる経験をしたりすることが、結局は状況の改善につながると考えられます。

ことぶき勸学院 活動案内

本年度のことぶき勸学院の活動状況を紹介し
ます。

親睦・交流グラウンド・ゴルフ

10月3日に韮崎市の市民グラウンドにて、中北
教室の1・2年生の間の親睦・交流を目的としたグ
ラウンドゴルフを実施しました。



普段は、別日程で講座に参加している1・2年生
ですが、この日は混成チームを作り、学年を超え
た交流を深めました。

秋晴れの空の下、得意な人も、体を動かすこと
が久しぶりな人も、和気藹々とボールを追いか
け、汗を流していました。

高校生との交流

勸学院では、教室で行われる授業、ネット配信
で行われる講座、臨地実習の他にも、高校で行
われる特別授業への参加があります。

この日は、韮崎高校の「自己を見つめ未来を拓
く体験学習サポート教室」を聴講しました。県立博
物館の学芸員さんから「浮世絵の歴史」について



学んだり、音楽指導を受けたりと、自分の興味に
基づいて選択した様々な講座に出席しました。

高校の教室で、生徒たちと机を並べ、学ぶ姿
は、まさに「生涯学習」の来たるべき姿であるよう
に思われました。

ことぶき勸学院祭



10月16日にコラニー文化ホールにて第28回勸
学院祭が開かれました。甲府・中北教室をはじめ
として、峡東、峡南、南都留、北都留のそれぞ
れの教室と、卒業生らの発表が演じられ、普段には
ない教室間の交流も持つことができました。

この発表に向けて勸学院生たちは、それぞ
れの教室で指揮者・伴奏者の指導の下、何回も練
習を重ねてきました。楽屋で発表の順番を待つ姿
には、ほどよい緊張感と「良い発表をするんだ。」
という意欲が見て取れました。また、発表が終
わった安堵の笑顔からは、自信と「次はもっと良



いものを。」という向上心が見受けられ、勸学院生
ひとりひとりの成長が見て取れました。

また、異世代間交流として、甲府第一高校の
ア・カペラ部、吹奏楽部による発表もなされ、それ
ぞれが、お互いの活動の価値を認め合ったひと
ときがもたれました。

山梨県 保・幼・小連携教育研修会

山梨県下の保育園、幼稚園、小学校の連携の取り組みを考える「平成26年度 山梨県保・幼・小連携教育研修会」が10月23日、28日、11月4日の3回に渡って県内各所で開催されました。中北地区からの発表を紹介します。

活気ある日々の遊びを小学校生活につなげる

田富みかさ幼稚園 村上智子 先生

5歳児クラスの中から始まった「泥だんご」づくりが、毎日継続して行われることで、参加する仲間が増えていった。その過程の中で、仲間づくりや、お店屋さんごっこ、レストランごっこといった社会性のある遊びに発展させてゆくことができた。そういった体験をさせることで就学前の「生きるちから」を身につけることができると考え、それを小学校生活へと繋がるように導く指導を行っています。



子どもたちのすこやかな成長をめざして

韮崎北東小学校 齊藤 敏子 先生
藤井 保育園 猪又しげ美 先生

幼児・児童・保育士・小学校教師・保護者それぞれに年間を通しての目標を設定し、綿密な計画・打ち合わせのもと、5回にわたる相互訪問を行いました。「給食探検」、「お話し会」、「夏祭り」、「保育園懇談会」、「学校探検」と多彩な活動を行っています。それぞれの活動で、先生方は、行事中の子どもたちの観察と、事前・事後に綿密な分析を行いました。その反省はPDCAのサイクルとして、次回・次年度へと活かされています。



遊んで学ぶ子どもの姿

自由遊び～生き物とのふれあい～

竜王幼稚園 佐野智之 先生

園庭の樹木に集まる虫たちとの関わりを通して、園児たちは成長してゆきます。自然との関わりにとどまらず、友人の興味に目を向けて、仲間同士のかかわりが生まれてゆきます。虫を見つけて、見張る係と、網を持ってくる係の分業をしてみたり、みんなで網を持てば・・・と力を併せてみたりしています。このような活動を通して、自分の力で考え、自分の力で解決する意欲や態度を育てるよう指導しています。



子どもたちの健やかな育ちを支える連携をめざして

大里小学校 : 小宮山 慶子 先生
二川保育園 : 江上 美佐 先生
大鎌田保育園 : 土屋 敦子 先生
大里保育園 : 丸山 久美子 先生
甲府大里幼稚園 : 藤本 遥 先生

大里小学校では、近隣の4つの保育・幼稚園との連携を図っています。園児160名、小学生228名(1・2年生)の大人数の交流となっています。『大イベントよりも、日常・短時間で』連携することにより、できるだけ負担を減らしながらも、『計画 知り合う 交流を深める 入学準備』の四つの段階を意識して指導しています。この活動を通して、先生方も情報を共有することができ、連続性を持った指導が行えるようになりました。



峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

期日：平成27年 2月12日（木）14:00～16:30

会場：北巨摩合同庁舎

テーマ：「いじめをさせないために、
いじめから身を守るために」

平成26年度 『中北.com』 4

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援

担当 内藤 阿部 野崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>